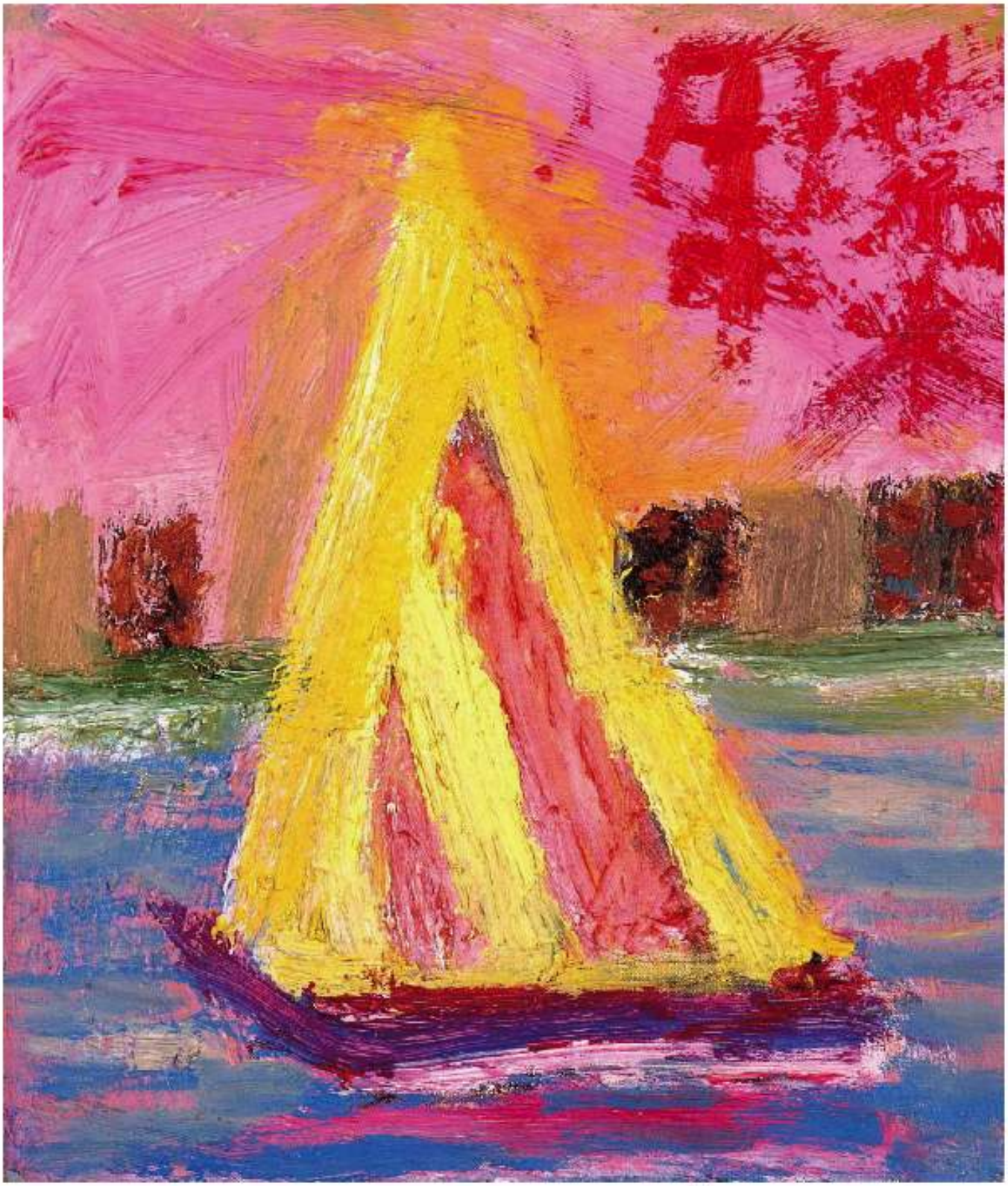
2002 年 4 月 23 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 5 の日発行）
2014 年 9 月 25 日発行　SSKW　通巻 3407 号

SSKW 海から海へ

No.37 2014.11.16【編集人】
特定非営利活動法人 海から海へ
〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5
マートルコート調布 407
Tel 042-441-2958　Fax 042-497-4878
http://umi.or.jp　office@umi.or.jp

窓辺のゆり Lilies at the Window 910x727 2007 ⓒ Mizuki Tanaka

海から海へは、障がいをもつ人から渡される豊富なものの存在に気づき、人々と共有するため、障がいをもつ人を中心とした、文化芸術活動、研究活動、社会教育活動、心理カウンセリングなどの支援活動を行うこと、および、それらの活動を通し、障がいの有無にかかわらず、地域・国内・国外を問わず広く交流を深め、人々がより良く生きることに貢献することを目的として活動しています。



みなとのこども診療所オープン記念

2014年8月1日（金）～12月27日（土）

田中瑞木展

みなとのこども
診療所

神戸市中央区東川崎町1-3-3
神戸ハーバーランドセンタービル1F

田中瑞木展

みなとのこども診療所
オープン記念

2014年8月1日（金）～12月27日（土）

みなとのこども診療所

神戸市中央区東川崎町 1-3-3 神戸ハーバーランドセンタービル 1F

第２０回田中瑞木展を開催いたします。

ＮＰＯ法人海から海へは、２００６年８月神戸市にて田中瑞木展（神戸市後援）を開催いたしました。

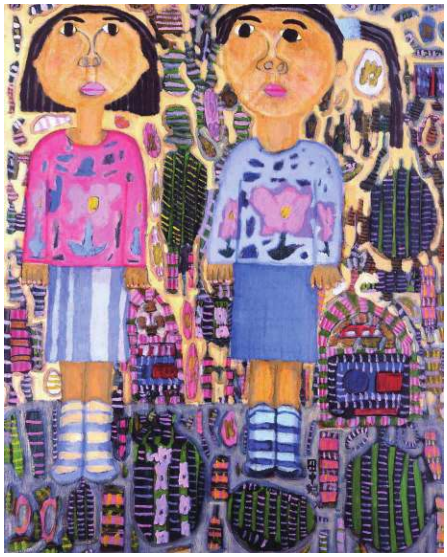
その折に今西宏之先生ご一家に初めてお会いしました。それから８年後の今夏、今西先生の「みなとのこども診療所」がオープンされることになり、そのことをお祝いし、診療所の壁面に田中瑞木の絵が展示される運びとなりました。

田中瑞木は生来、脳器質性障害を負っています。小学６年より油絵を描き始め、２８年間制作してきました。作品展数は現在７５点で、東京調布市にある田中瑞木美術館（海から海へ）では毎週日曜午後に開館しています。

今回の展示作品は右の１６点です。この機会に、動物、植物、人物を題材にした田中瑞木の豊かな世界をご覧いただければ幸いです。

展示作品

1. よそのねこ　380x455 1985
2. よそのとり　380x455 1985
3. 静物 350x270 1985
5. ヨット　333x242 1986
7. さかな　455x530 1987
10. パレットを持つわたし 530x455 1987
13. 黒猫を抱いたわたし 333x242 1988
23. 花とレモン　727x606 1990
30. 自転車に乗ったねこ　530x652 1992
45. 七羽のうさぎ　727x910 1996
47. くじらといか　910x1167 1997
52. 夜のクリスマス 1167x803 1998
57. おひめさま 300x350 1987
59. 線香花火 430x430 2001
61. ともだち 727x910 2003
68. 窓辺のゆり 910x727 2007



田中瑞木（たなか みずき）略歴

- 1973・東京に生まれる　１２歳より油絵を始める
- 1991・東京都立府中朝日特別支援学校高等部卒業
- 1990・全国学校秀作美術展にて日本美術教育連合賞受賞
- 1995・東京赤坂草月ギャラリーにて第３回個展
- 1996・第１１回障害者総合美術展にて最優秀賞受賞
- 1998・調布市文化会館にて第５回個展
- 1999・富山県黒部市国際文化センターにて第７回個展
- 2000・新潟県長岡市美術センターにて第８回個展
- 2001・作品「ねこの原っぱ」、小学校教科書図画工作に掲載
  - ・ＮＨＫ第２回世界ハート展招待出品
  - ・ＴＢＳテレビ「ニュースの森」で取材放映
- 2006・神戸市立王子市民ギャラリーにて第１３回個展
- 2007・田中瑞木美術館オープン
- 2009・長野県野辺山「南牧村美術民族資料館」にて第１５回個展
- 2010・栃木県那須郡那珂川町「もうひとつの美術館」に招待出品
- 2012・静岡県静岡市清水区「えじり保育園」にて第１６回個展
  - ・日本描画テスト・描画療法学会にて第１７回個展
  - ・東京下北沢 Com.Cafe 音倉にて第１８回個展
- 2013・新潟県南魚沼市「工房とんとん」にて第１９回個展
- 2014・神戸市中央区「みなとのこども診療所」にて第２０回個展

みなとのこども診療所オープン記念
田中瑞木展
2014年8月1日から12月27日

神戸への旅

田中瑞木美術館学芸員　阿部愛子

８月１日オープンの「みなとのこども診療所」を目指し、７月３０日東京を出発しました。留守番の２匹の猫は階下の息子夫婦に頼みました。ドライバーは１人ですので一日３００㎞ 以内の運転距離を考え、神戸までの半分の中央道岐阜県辺りに途中泊します。昨夏の旅行でも同じ道を通りました。集中豪雨で対向車からの水しぶきをフロントグラスに浴び目の前が真っ暗になった怖い体験があります。しかし、今回は天候に恵まれ、視界も良好、空気が澄んで、窓の外は緑の山々が連なっています。途中のサービスエリアでソフトクリームを食べ比べ、いつものようにお土産を買い求め、神戸で待っていてくださる方々のお顔を思い浮かべながら走りました。

真昼の中央道

画家は旅好き。今夏は絵を運ぶ旅。神戸までは遠いけれど、何度も訪ねた場所だから、親近感を抱いている様子。不安がないことは余裕があること。いつも新しいことに向かうときは口数が多くなる。けれど、今回は落ち着いています。ドライバーも運転に集中できます。あっという間に１日目の宿に到着。部屋の窓は全開のパノラマビュー。ダムの貯水湖に恵那山が映り、絶景です。自然に包まれ、心が落ち着きます。

翌３１日、順調に高速道を運転。神戸ハーバーランドに１２時到着。宿泊するホテルの隣が今西先生の診療所。夏休み中なので、子どもや家族連れで町はにぎわっています。アンパンマンミュージアムもすぐそこにあります。日差しが強くて、ほんの少しなのに南の方へ来たと実感します。

このドアの向こうに…

木のインテリアがやさしいです

さて、診療所のスタッフのみなさんが集まりました。車から絵を運び出します。スタッフは臨床心理士、作業療法士、事務職の方々総勢７人です。診療所に運ばれた絵を前にして、スタッフのみなさんが感嘆の声をあげられます。この絵が飾られ、この場所の雰囲気が一変する現場に立ち会う興奮が伝わってきます。過去の展覧会でも同じような人々の反応が起こりました。「よかった」と思います。設計デザインを担当された方も加わり、診療所の壁に学芸員の指定通りの場所に絵が架けられていきます。

一番始めに見ていただく絵は「くじらといか」です。玄関を入ってすぐ右手の白い壁。深みのあるブルーの海に大きなクジラが３頭と赤いイカが３匹泳いでいる絵。赤色のイカ！びっくりしますが、イカの本物の色です。この絵は動物の本を見ながら描かれました。

次に「ヨット」。実はみなとのこども診療所のシンボルもヨット。ぴったりの絵が待合室の入り口に飾られました。

玄関から広々とした空間が・・・

それから、初めての作品の「よそのねこ」、小さな子どもに人気の「７羽のうさぎ」、１２月までの会期に合わせて「夜のクリスマス」、花の絵は季節感がいっぱいの「窓辺のゆり」と「花とレモン」。「黒猫を抱いた私」の自画像、などなど。画家の世界が見事に展観され、確かに、みなとのこども診療所は生き生きとした空間に変わりました。室内の空気が呼吸を始めたかのようです。今回はここでみんなに観てもらおうと絵が張り切っているようにも思えます。すてきな展覧会が始まります。

夕刻、今西先生のご家族が到着され、奥様に「すてきな診療所ができましたね」と声を掛けると、「そうですね。すべて主人がやりました。このようなセンスがあることは知りませんでした」とのこと。夫婦であっても知らない面はあるものですが、このように新しいステージが始まるときに、パートナーの感性に共感できるっていいですね。

今西宏之先生と画家

新しく始まる仕事場が気分よい場所であることは先生にとってもスタッフのみなさんにとっても、大事なことです。訪れる子どもさんやご家族のみなさんにとっても、安心と居心地よさと、向かう方向への信頼とが生まれてくる場所になっていくのでしょうね。信頼できる医師に出会い、診ていただき、相談される方々を想像し、なんだかうれしくなってきます。

いままで、何もわからない不安、しなくてもよい後悔、何も生まれないのにもってしまう自責感、誰も信じられない不信感、一人でがんばる疲労感、生きることの失望感、などがあったかもしれません。だとしても、これからは、いつもそばにいてくださる安心感、現実を観るための勇気、考えや行動への励まし、いっしょに考えていただく希望への道、親子がともに将来を夢見る思いを、「みなとのこども診療所」の先生とスタッフの皆様に期待できるのではないでしょうか。

絵に見とれるスタッフの方々

入り口から見た診療所内部
プレイルームの隣には箱庭の部屋もあります

大人もこどもも癒される空間、スヌーズレン室にて

展示に夢中になっているとき、視界の中のある人影に気づきうれしさがわいてきました。武田比早子先生です。比早子先生とは、２００５年３月当法人と「障がい者から学ぶ会」の理事本間康浩さんが神戸で開催したイベント「命を語ろう～新潟中越・東京を結ぶ市民の集い」で初対面しました。それから３回目の再会です。比早子先生が温かい目差しで絵を１点１点追って行かれる姿はいつも同じです。「不思議やわー。瑞木ちゃんの絵、ええわー」。

待合室にて　　武田比早子先生

プレイルームにて

そのうち、お連れ合いの武田浩一郎先生が来られます。「お久しぶりですね。」。浩一郎先生からは地域医療のお話を伺うことができました。３人の医師が熱い気持ちで仕事に向かっていることが伝わってきます。瞬間的に、神戸っていいなという思いでいっぱいになります。

実は、グループホームを３人の親で準備し開設にこぎ着けた１５年前、神戸に利用者と家族と世話人とで訪れたことがあります。そのとき、グループホーム、パン工房やパン作りの作業所を見学しました。運営している社会福祉法人の思想と行動力に刺激を受けました。そこから、利用者主体の福祉を学びました。主役は当事者であること。

ともすると、援助する側が優先され当事者が遠慮することが当たり前だった障がい者福祉でしたが、神戸で見聞きした当事者とそのご家族、支援者は自立した考えをもって、身をもって実践していました。周りを気にしたり、迷惑かもと尻込みしたり、自分たちで解決しなければならないと思い込んでいた東京からの訪問者は考えを変え、新しい気持ちをもつようになりました。

障がいがあることは本人の責任ではないこと、障がいがあっても町の中で暮らしていくこと、障がいのせいにして生きることは恥ずかしいこと、障がいのある人を排除する社会はほかの人も生きにくい社会であること、障がいのある人の権利を認めること、障がいのある人から周りが学ぶこと、障がいのある人がたくましく生きていけるのは本人が学んだ影響が大きいこと、みんな堂々と生きてよいということ。

私たちにとって、神戸は移住も考えた程、何度も訪れたい場所の一つになりました。神戸をきっかけにアメリカ、シラキュースへの旅（ニューヨーク州立シラキュース発達事務所ほか）へと続くのですが、旅はどの旅も同じで、たくさんの学びがもたらされます。神戸は遠いところと思われるかもしれませんが、神戸に画家の絵が飾られ、子どもさんたちとご家族も目にされ、口コミで関心のある方々にも観ていただいているという、想像の旅をしていただけたらと願っています。田中瑞木の絵の世界へどうぞご一緒に旅をしてくださいね。

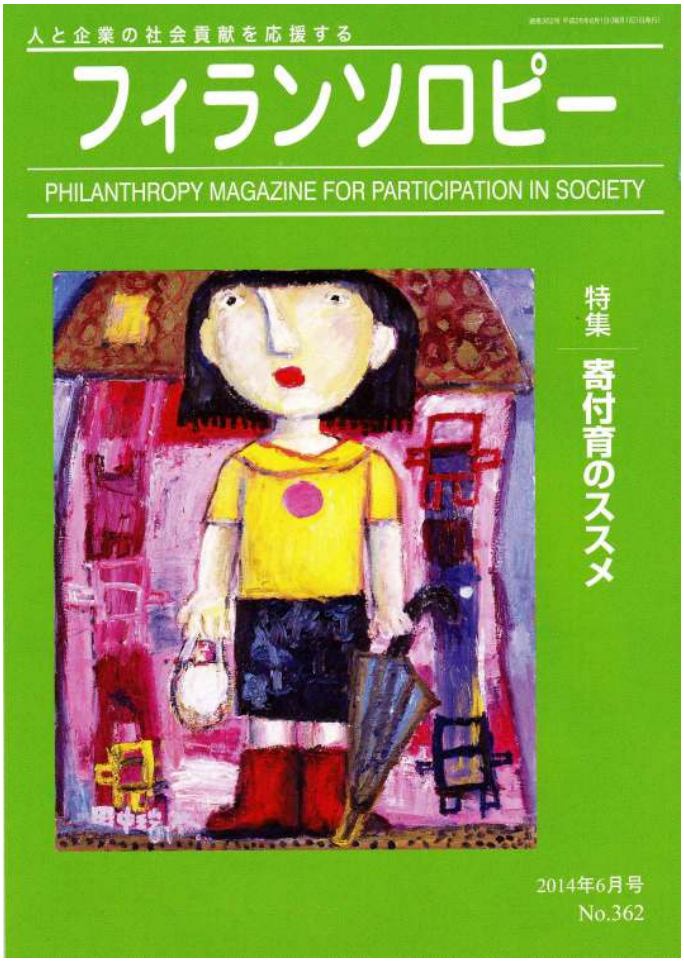
旅は人を変える魔法をもっている。人生もまた旅のようなものでしょうか。出会い、別れ、再会、そして・・・。皆様、よい旅を！

スヌーズレン室にて

ボールプールに埋まる画家

作品掲載のご紹介

公益社団法人フィランソロピー協会の機関誌に田中瑞木の作品が掲載され、理事長高橋陽子様よりお手紙が届けられました。機関誌に書かれている文章も掲載いたします。



「雨の日のママ」

「雨の季節です。ママが買い物から帰ってきました。ピンク色の家にはイスやテーブルが描かれています。これから夕食の支度が始まります。今日は何かな。ハンバーグならいいな。とんかつも大好き。やっぱり、マグロの刺身でしょ。でもね、大好きなママが作るものは何だっておいしいよ」
画家は３年目にして、初めてママを描きました。絵を前にして話しをしない画家のひとりごとをママは想像しています。心温まる幸せな時間です。（文章：阿部愛子）

1988 年制作　727×606 ㎜　油彩　（15 歳）

２０１４年６月２０日

田中瑞木　様
阿部愛子　様

公益社団法人日本フィランソロピー協会
理事長　高橋陽子

拝啓
爽やかな新緑の季節もつかの間、早くも真夏を思わせる暑さが続いております。
田中瑞木様、阿部愛子様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度は、当協会機関誌の表紙にすばらしい作品を使用させていただき、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。今回ご提供いただいた作品「雨の日のママ」は、貴会会報で拝見して、傘と長靴というモチーフが梅雨を迎える６月号の表紙にぴったりだと感じ、掲載のご許可をお願いした次第です。その後、阿部様にご執筆いただいた解説のテキストを拝読しまして、季節感溢れるモチーフもさることながら、本作の背景にある「瑞木さんとママ」との温かでやさしい時間を想像し、この作品への愛着がいっそう湧きました。本誌読者も、必ずや同じ気持ちを抱くことと思います。表紙に掲載させていただけましたこと、大変光栄に存じます。

当協会では、２００７年に障がいのある方々の絵画展を開催し、その後も、本機関誌の表紙を通じ、微力でございますが、隠れた才能を世の中に紹介する活動を続けております。今後も多様な分野で社会活動に尽力されている方々と社会との「つなぎ手」として活動に励み、日本の子どもたちの希望につながる活動にも尽力してまいります。

末筆ながら瑞木さんの益々のご活躍と、阿部様、皆様のご健勝を心よりお祈りいたします。

まずは書中をもって御礼申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

敬具

フィランソロピー

語源は、ギリシャ語の「フィリア」（愛）と「アンソロポス」（人類）に由来しており、「人類愛」「博愛」などと訳されています。今日的意義として、「社会貢献」と訳されることが多いようです。
「人を愛する」ことを前提とした社会参加は、人とそして自分との思わぬ出会いがあり、新しい世界が待っているかも知れません。それが結果として社会貢献につながるのではないでしょうか。フィランソロピーは私さがしの社会参加から…。　（協会機関誌より転載）

田中瑞木美術館展示作品

油絵
- ねこの原っぱ
- 秋のサファリパーク
- 花を描くわたし
- 私のすきなもの
- クリスマスを待っている
- フロイトの家の前で
- 風に吹かれて縞すすき
- ピエロ
- バラ
- 白い花瓶のトウガラシ

スケッチ
- 八ヶ岳のキャンプファイアーのスケッチ
- カラーのささやきのスケッチ
- 秋のサファリパークのスケッチ
- ブランコのスケッチ

色鉛筆：マーマレードを作るよ

平成２６年度会費納入のお願い

平成２６年度の会費・寄付金の納入をお願い申し上げます。美術館の活動をはじめ本法人の事業に生かしてまいります。

昨年度は、多くの方々からたくさんのご入金をいただきました。ありがとうございました。

年会費
- 正会員 3,000 円以上（活動にご参加いただけます）
- 協力会員 1,000 円以上（会報をご購読いただけます）
- 賛助会 30,000 円以上（法人様を対象としております）

寄付金（随時お受けしております）

振込口座
- ①ゆうちょ振替：00110－0－684539
- ②銀行振込：みずほ銀行 調布支店
  普通預金 8082621

口座名称（①②とも）
特定非営利活動法人 海から海へ

平成 25 年度会計報告

（単位：円）

Ⅰ 経常収入の部	
1. 会費収入	164,000
2. 寄付金収入	215,000
3. 受取利息	145
経常収入合計	379,145
Ⅱ 経常支出の部	
1. 事業費	
(1)障がいをもつ人を中心とした芸術活動の支援と作品の公開展示	139,781
(2)障がいをもつ人を中心とした心理教育社会福祉研究と実践	0
(3)障がいをもつ人を中心とした交流の促進	146,586
(4)芸術、教育、心理、福祉などに関する社会教育	0
(5)障がいをもつ人とその関係者のための個別相談、教育支援、生活支援	0
(6)活動に関する広報および成果の公表	97,475
(7)(1)～(6)の事業活動のための募金	0
2. 管理費	15,350
経常支出合計	399,192
経常収支	△ 20,047
前期繰越	897,787
次期繰越	877,740

編集後記

前号の会報発行から半年たってしまいました。この間、５月の総会で神戸の「みなとのこども診療所」オープン記念の展覧会開催が決まり、７月末には、東京から絵が運ばれました。すてきな診療所は、田中瑞木の絵が飾られ、報告にありますように、すばらしい空間になっています。こどもたちは、絵のある空間で、優しい先生とスタッフの皆さんに日々迎えられていると思います。１２月末に神戸を再訪するとき、先生たちのお話しを伺うのが楽しみです。

画家は今、絵とは別のところに関心が向いています。それは仕事のように思います。誰かの役に立つこと、自分が大事にされていること、他者への強い関心、そういう思いが満たされる場として、仕事があるということです。今は、絵はそっと脇に置かれている感じです。　（輝）

特定非営利活動法人 海から海へ
http://umi.or.jp　office@umi.or.jp
振込口座　ゆうちょ振替：00110-0-684539
みずほ銀行 調布支店 普通預金 8082621
2014 年 11 月 16 日 海から海へ No.37
編集責任者　阿部公輝
〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5
マートルコート調布 407
Tel 042-441-2958　Fax 042-497-4878
発行所　〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
定価 200 円